



私たちのキーワード

病児保育支援・自治体DXで 子育ての未来をつくる

Connected Industries株式会社

病児保育支援システム

「あずかるこちゃん」で広がる子育ての選択肢

テーマ

病児保育室と保護者の マッチングサービスの開発

事業内容

産婦人科医として医療現場に携わるなか、病児保育に出会った園田代表が、子育ての選択肢を広げたいという思いから起業。病児保育室利用のハードルを下げ、利用したい人が気軽に利用できる仕組みを目指して病児保育支援システム「あずかるこちゃん」(https://azkl.jp)を開発し、ユーザー・施設と連携しながら病児保育事業の課題解決を行っています。



代表取締役社長：園田 正樹さん

病児保育室利用の ハードルを下げるシステムの開発

「内閣府の調査によると、全国の病児保育室の利用率は約30%にとどまっています。利用率が低い理由は認知不足に加え、その使いづらい仕組みにあります。定員を超えるニーズがあるにも関わらず、実際の利用率は30%程度に留まってしまう要因として『予約の電話がつかまらない』『当日キャンセルや無断キャンセルが多い』『繰り上げの連絡がうまくできない』など、保護者と施設双方の事情が挙げられます」と話すのはConnected Industriesの園田社長。そんな状況を改善すべく、病児保育支援システム「あずかるこちゃん」の開発に乗り出します。

支援を受け、病児保育室と 保護者両者の利便性が向上

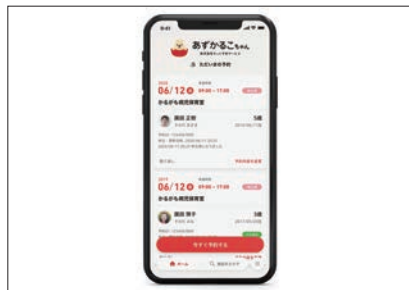
「『あずかるこちゃん』の導入により予約対応をデジタル化することで事務負担が削減され、利用率の向上と施設の経営改善が期待できます」と園田さん。本事業を利用したきっかけは、「あずかるこちゃん」の新機能開発を行うため。「支援期間が長くて助かりました。支援を受けて開発した機能は、クライアントである病児保育室とユーザーである保護者双方にとってより利便性の高いサービスとなりました」と語ります。このことが営業時の強みにもなり、契約の増加に寄与することに。また、他のサービスとの差別化にも役立っているといいます。

すべての子どもが健やかに 成長できる社会の実現を

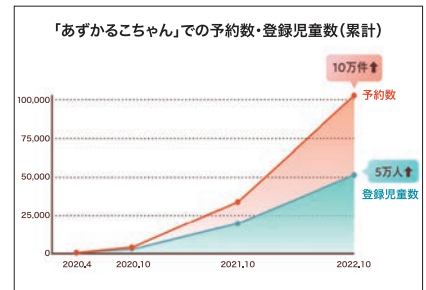
病児保育室は季節や日により利用率に差があり、利用状況が予測しづらいため、経営環境が不安定になったり、必要な支援が行き届かないといった課題があります。それを抜本的に改善するため、園田さんは全国病児保育協議会の委員として「病児保育の広域受入ガイドライン」を制定・発行。設備を相互活用することで、より効率的な運営が可能となりました。「どんな子ども地域や家庭環境に関わらずバイオ・サイコ・ソーシャルの面で健やかに成長していける社会を実現したい」と園田さん。デジタルを活用し、必要な人がセーフティネットにアクセスできる環境づくりに邁進しています。



保護者は無料通話アプリ「LINE」の「あずかるこちゃん」公式アカウントから登録。施設側はパソコン上で情報を一括管理できます。



親しみやすく、使いやすいUIを採用し、施設利用のハードルを下げることで利用率を向上させ、施設の経営改善につなげていきます。



「あずかるこちゃん」サービス提供開始2年6カ月で、登録児童数5万人および累計予約数10万件を突破。

会社概要

■ 所在地：東京都中央区築地六丁目7番11号 ■ TEL：050-3703-2017
■ URL：https://ci-inc.co.jp ■ 代表取締役社長：園田 正樹 ■ 設立：2017年7月 ■ 資本金：700万円